序

画狂先生曩飛来于三之子河猶之也
華雪園主人楢紹紀於吉田以来
肖像飛為生涯常自集録之
因謂之雅画飛騰蓋非不曰概
之集寄之於漢既至於十有四編
続之不止至先生此十編而終何

其体也彖困之卦去之為詫所
乎乎取是之義也剌求为題数
言云
戊午晩夜　澹山樵主人題

槻弓集十四編

十月や筆をとゝのへて出る鍬の日和　唯風
数もうらゝよ嬲をこの帯る磨　見外
解（トト）船よおのく安以れ入せて　全
鷺を判るゝ帯釜の酒をそむ　其
十六夜も初のふとゝ色し旅ぞとり　全
門トハとりて帯種をの帯りむ　外

ひたすらに信仰する者
霧さるこの辺の辺鄙なる
男ばかりの世帯の
ひとりぐらし
濃淡の紅葉なぬ男
なぜその業のこの辺
俗の通りに
蓮華
蓮華の幕の
未だ
人

山情奥の孤村寂寥の
煙霞の賜よりなれるもの
遠座の拾遺なき　川辺
降て座するの日の山
明るを待て松ものゝ
一文薬子を舌よりまく也
蟬座して鳴る翼を清く角
うゝ也東京の柳をまつる

仝
仝
仝
仝
外
仝
仝
仝
外

又しらぬ行てふ者のまゝのく
温泉の叫永八利とまるもの
家ゝぬ家松のうへよ物案せ
目永よりきて僕家より
松ばきハこのなゝきを家の今まを
折ばなゝ　なる　畑の　郷く

仝
仝
仝
外
仝
仝
仝

[illegible]物よりまきもぬ出芽れ　然沈

沼の蛙社田よりる夢　葉操

留主ものの小水きまる新出て　見外

咲とつこのこれと[illegible]施屑　沈

[illegible]やうよ月稿とつ今月元を　操

秋を莢水〳〵　仲のいるるき　外

お樓衣宿うつるものの上手ある　沈

[illegible]と葉　[illegible]の何[illegible]ちもきしき　操

未屋町よ居る時のもあるを　外

[illegible]る年ハさせぬ　沈

汗入せよ[illegible]〳〵　[illegible]る松の根　操

舟[illegible]お[illegible]と　[illegible]く[illegible]ら　外

[illegible]明の[illegible]　[illegible]る[illegible]日和　沈

[illegible]ひとも[illegible]　[illegible]る[illegible]　操

醍醐流のおハらせめ黄黄石　外
結ぶ〻ふ雲〻薄霧のそゝる　池
うゝ絵のゝ霧のゝる下り坂　操
雨傘引歩き来仏のゝ中のめ　外
朝ゝハ波おとつゝき汐干潟　操
霧ゝゝるゝの籠をせゝる　池
庭内をゝる〻ゝ見る秋葉緑　外
七つの鐘よ東ゝ松ゝ　操

着ゝゝゝぬ宿屋ゝ納豆好　池
雲ゝのうちゝゝ雲雲ゝ雲ゝ　外
雲雲の橋ゝ新ゝ出ゝ後ゝ　操
雨傘の雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　池
小雨ゝゝ遠ゝ江戸恵比　外
秋雨ゝゝハ雨ゝ雨ゝ　操
月ゝ雲に月の陸ゝ月ゝ　池
ゝゝゝ月の雲ゝ　外

保川の小橋を渡る保雨　操

旅を宵寝の夢完のうち　池

東の空は閏二月の末よまり　外

地のふるこのもるる色も山ゝ　操

梅を居る梅の痛みなるる　池

吸ふ時蕉のよりなをいふ　外

一茶案内帳に曰ふ蕉翁

歌の會侍ると詠まる春の月　思水

母の名る雲へ出ち出を知ぬ　草笠

侍の巣ぬうを蕉ふ西行忌　花鳥女

ふゝり居て咲ゝ小笠ぬ咲き　一好

松ぬへ立る日我ま侍の巣ふ　芋守

池さゝ一鼻をあくて魚の浮く　素丸
いなんとしちき初うり伊勢屋　葉丈
垣ちゝよい梅くの梅さ初よう　葉外
ゆうはなる芋の初ゆやけうる　一雅
出雲ふ屋の赤くやゝ乗ゝる　大義
初市やうの新ゝさ殘燈　西甫
はゝ叶やゝ蟬ハ先くるの空　素外
川ちちをゝせてゝ蛍の水　石丈

ゝ八幡つて降ゝ何ゝ春の空　即堂
春ハ望日をゝうゝふゝの春の雨　源雨
風雲ゝまゝ松ゝ何ゝ春の柳　柳柳
泉水の魚ゝはゝゝ日永の水　塊心
葉の池へ蛙ゝうつゝて花菖蒲　就寿
ひゝゝはゝゝ係ゝせゝの知ゝ　東吾
去年ゝうゝ何ゝくゝはゝ蛙　一鈴
ゆ八ハ蘭田ゝゝあゝ春ゝけゝゝ　旬西

正月十六日より十六日まで日数の事　　定法
右之通の北へ寄る時　　安達
卯月雪ふりたる頃の帰る　　源義
家より居て去年の去年の雨の日毛野黒毛の葦毛　　祖父
一色より出る黒つたる　　系義
花色栗毛の山人の物　　義
法師の東郎

法師
屋敷の下毛野より出る時の馬
葦毛の黒毛の山毛野の
赤毛の黒毛の黒毛
法師の黒毛の黒毛
赤毛の夜の黒つ
花の黒毛の赤毛の
白毛の黒毛の黒毛
赤毛の中口の黒毛

法師
屋敷
水
尋者
西馬
永機
法師
義経

由之　芦塚　栃堂　花淵　水壺　抱雲　寿哉　田鶴

風什　寒村　流風　吸月　白交　宇心　雪年　卜早

朝起を競ふ旅寝しや花の宿　之考良

中〻にむまめくり逢ふる命かな　孚民

幾日の空色移ろふ花常利　杉巣

黄昏や茶室の内は夜の静か　素泉

門構や一と日めのる斑やしき　き白

踏出しこゝろの思案やかさく庭　朱仙

おとらせず新よ雲やまちの雨　喜暁

揺居るまゝくたりにけり雛裳に　梅雅

耳まての春寒し森の花　見葛

黄昏や写はまたかね長かた去　以甫

庭あふし坊に寒さもなき為　篤山

三千里の旅寝もおぼえて　不深

我の花の新引悪や筬の跡　羽雪

神の杜花咲や海まての柳かな　山子

菜なのや山八重霞し雨の花　如月

集庭生まゝも菊の花の雨　四譚

一聲の春雨に秋去て神のうしを　吳蝶

野末くさ知所やあるのぬのうの花　慕時

花の雨人さとのうて晴る事堂　子芳

年こしきあるふるきの蛙うの事　弘湖

元日よ兼く雪を見井戸の蓋　芳宝

初秋や昭き静さ蝉の音　次山

松の男や男明さらちのうなる　松頂

陣と男　菜を伺の舟秋寿　清路

山年や蓑のこらこ　仮宝

風雅の是を里やもやさら蛙　曜纓

変さのう陣とあるみや是よ地　梅洋

江のうへや陸の動を山さ　方中

窟さ年さ中さ日も蓑さ　卯月

ろ後陣さあるさ不見のあきを　墨芳

地さるみきあるを角や梅つを紀　歯山

春の山ろ陸ろうて蓑よあり　尾村

常盤木や古葉に交る根の元　芙由
ひら新の咲甲斐もなき梅ちるれ　夢く
雪のもとあきなき春の行方く　鮮之
初松魚旅日記へる寺里　陸奥
家さとよりこの年梅や飛ちる　波郎
鶯の音のそ語のそ山届れ　芳子
春三日雨つや寝ぬ枕のうち　花少
信州に取さ出て来うれ　青柿

春雪や網曳の篠　雪　きく雄
ふきなりよ所さなる義　真砂
一輪の四方へ三寸ほの香　末子
豊年や義も洗ひ桜の年　青丸
才ふり市る霧さひ桜れ　樹子
白玉の蕊をうの年梅の体　栗氏
くるりこら姫の生ふ花屋　甘蔗
ひるものまうれ風のる　達二

夕月や梅の白しのうきしづく　蟬見

鶯のきそひやいかるがの手一すじ　東松

花の山色香の出羽もはるかすみ　鯉丈

萩寺といふ山寺――寺の相続也　陸樹

板屋やいかる芝棄よ日の白し　甘志

久方やぬるうまさて乗ぬく先哥　未号

炉ふさぐや鼠の穴ぬ冥人時雨哥　石雀

蕎麦やこれ見るこのよ棄のそらもも　子松

歸る蕎麦のこゝろぬいさ――在の門　三禾

さつとうと花のいろうる子苗うゑく　欣志

打ちはらふくまさをまるる蕎麦畑　如泉

引力はうそうきゝ山松うの邪　静石

名月や芝雲寺　はうはなのら　時彦

長寿寺や牛ゐ寺人も寝ぬほとゝ　蟹州

蕎麦やそ蕎麦よ風の寺――法　見外

武蔵

人の年の初日はまづ都にぞ　遠渕
雲やまず　吹屋日の暮る　春山
家数は　桜まばらに　雲の里　蕪生
初時雨　二つ三つ　降　田士　乙丸
節なぬうちの　芋の角　遠水
山ふきのちらや　小梅の　麦　如柳
和の名やなつ　畑の　蕎　武

綿ぬきや　旅よ　毛皮の　住吉
殘るの　志き　雲　居　清　丸　大吉
人参　なつし　遠　や　初　冬　采采
ちなつ　旅　や　ま　る　新　墨　寸渕
家鞘の上　冷　つ　や　初　冬　原恕
西月や　羽織の　ま　る　恒　う　物巣
老の面や　墨　と　ま　る　天由
義の年や　ま　ま　ま　の　色　桃仙

出ることは世にまれなる
文を寄せたるの君の
あやまりきて出つるとて
人の見るやは恭を忘れ
寄せ申すまの
指をしてなるを
人の目を恥ぢ人の注ぎ
知らせる越前の
初年やあるの年寄の菜用意　十八九
菜井の前行く里の　古畑　溪亀
遠く行く人の優美やきき　十波
き沼の絶えるの
傘さしを酒を出つ中雑子の考　完路

安房　上総

見あらえて名を忘れ男　本二
妨の屋を抜きて毒の言　水雲

東雲
深雲
一賀
亀遊
星峰
宝樓
三巣
巷東

世古俳句集より 酔て至吟　市弦一　淫

佳美なる日を佳演のうつくしき　篁朗

梅の香よりそそる春の月　梅史

昭のとくくるまの子来や秋の色　蕪史

麦秋や家のうしろより遠入口　篁外

玉地うるやおそくまでの種おろし　梅竹

家のうら宮をうえて蓋のもと　美水

心を集む日和さまる入浴過　金陵

書に入る絵のうるはしき深生れ　東里

雛のあくや卯の刻の係まで　月釜

夕蛍や芝よりの年出を雑草　峰雲

使人なる風のよりやいの秋の　嘯雲

家隣りとなる小池や蛙　洗耳

鶯の捨てしまうる玉の笛　出中

鶯やうゝ麻さまを引きき　一羽

篁畑や田打ものの紙書ひ　森外

[illegible]　桃園
[illegible]　惠柳
[illegible]　乐心
[illegible]　乐水
[illegible]　惟馨

常陸　下総

[illegible]　改二
[illegible]　淫水

[illegible]　淫一
[illegible]　葦廼
[illegible]　柳心
[illegible]　梅柳
[illegible]　北総　唐年
[illegible]　秀松
[illegible]　花村
[illegible]　以足

上毛　下毛

黄金花咲山吹の実　葉永
降る雨に日を経る苔の糸　嵐松
菊ちりて幸の盃の花　つき雪
花咲て葉のおくるる牡丹哉　隆逸
牡丹咲る四月の雲の旅　遊の里
山の井に水ある苗の蕎麦の形　玉樹
あるもうるふる雲の中　樹辰

なるふて一度は咲く理樹菜　半湖
小料理屋に日永の安来蕎　みち里
見るもの〻と咲る菜の理の尾　徒一
さく雑ちる蕎の初雪さるる　文水
いつの世達ち時雨て梅毒菜　一朗
裡時のもしめ文字る竹ゝ書　樹山
紫ゝ来る雪ゝ引ゝ雪の形　石外
竹ゝ雪に〻て〻の〻て一二尺　一静

梅花　紅
雪中梅の春　井鹿
いつ美し時雨ハこのそらぬ笑んと　心星
まつこなる梅の匠　うの集のそる　巴蛇
肩衣の人ひとりも　年始宴　柳玉
梅のとうせて　雖ハ　まこと臺　未美
美水　まこ　潜ひそる　星の新　玉鄰
いは清毛の日ひのとく　竹雪き　鶴水

梅白　二日うの　梨堂
梅白ひ年の春ひとりの　春の浦　春嶺
雪ひとり　ひ　ひとる　梅の　殊玉
黄色　おそび　ひ　長烟子　嶽石
白梅　倩の　雖　ひ　ひ　玉英
初年　ひ　ひ　輝山の　梅ひ年　下毛　無鈴
新　変　ひ　ひ　ひ　雪　屠ひ剣　花烟
おー　ひ　ひ　ひ　人の中　麦臺

蕨より後て柳の下しる　保雪　聚山

明きまし〻よ岸をる春の白梅小　主外

蕭や宮のしきりさぶい常の秋　六雷

伊豆　相模

中と見の元帝郎きこの胡瓜小　青霧

ぬのうちへ出て見の帝きの花の月　種樹

見黄蕨郎く井よ雲よりう　雲霧

圓栗や水庄まきいゆのう深く　五尺

蕭見ハむのをきをぬ学んと小　松宇

蕭やうめるぬうと庭の石（サカミ）　旭松

立像の郎えきまをよ霧の水　郷里

初見をうと出て人やて又学う　民我

青山の雷嘆うく出きうと陸う形　笙山

霧のきハ小松の中ぬ小松の形　里人

このうちあうきうと掃る大桶小　布丈

むきうぬ学月ひと松や春と人　薫岱

甲斐　信濃

苔むす山路さびぬ　咽清し　都月（字在甲斐）

この夜明日や晴るるものの小松　東華

咲こぼるる人まつ新や山の花　皎々

新の月桂樹のこの枝きて乞うれ　その守

花と春の引ぬきやき尾上の形　杉嶺

桃さくや莨　休るの宮大工　山鄙

鰒鯛よ望月の角力の夫人　逢里

時雨うち出の市きやきき生　百邦

垣ぬくく黄雀町をさなき帯　景由（シチノ）

いとさきさきよ花ちるこの　ノ左

夜まつや嘉水物ふるあやき　萬月

垣ぬつ咲くぬぬやぬ蘭長茶　多哲

茶水よ　海ちんて行る杉葉代　波閑

秋八ぬぬ人の法衣や江戸の毒　有来

藤休とちくて種きひとき帯　雪鷹

晴うる雲のうはべ　長宇
眼のの知う詠をの　亀六
市ひとの雲ともあぬ　七朗
俳て只一日のまつうう　蕉堂
黄雲もの日ひしあの　福
一日よ何雲ひとの　青蘿
鶏のるれ京を樹より　重行
海のまよひの市を　玉雨
長深を利

物ものも日裏の風秋　杜流
雨二日路林のるれ紙　兼雄
今ひうと物を藥やき兼　一條
秋雨一ち鶏の色ちあの上　呂伝
月稲の美も蛙人ちと　美兼
秋の夢ひまのちをちと　雲光
宵雲もなひ秋の風ひう　蕉歌
門雲ちめひうや市の色　迎祥

見外

壹岐

路池

外

岐

池

外

岐

池

外

岐

椋鳥郎りの囲観てひきこもり　池

併ちとすゝむ池のさし波　外

小家ゝのすゝ討るゝよ連ゝて　岐

ふゝむ苑二いろさく花の根　池

辻蔵の観父をのせる経路み　外

ませつくる柳鋼の借らり　池

著近りあかすちらく封る精　岐

類枝実て世をもる手いふ　外

よの騒き家婦の筆たらせよりとせのもと　池

ちゝつこ行よくときく傘　岐

継母子の相ほへまそる近江店　外

中刻ら盛きて殊まるの書　池

雨掛て蟹の墨絵たく塩まり　岐

僧くゝ出む風呂のちるなし　外

朝月よりさく花の哀くと　池

夜鶴の押しはた老姥新庭　岐

下寺に入佛おの体なるく　外
仮の集ぬく人も市利　池
ゝもゝ名のうゝ宵のうゝく　岐
下結て二竹へ竹のる　松小屋　外
清ゝゝ水くて新末の花蓮　池
寺居のうちも　蓮　岐

東安

雑ゝ雑ゝ宵ゝ宵ゝ八雑ゝき　孤柳
ゝゝ雨や山ゝゝゝる旅籠町　梅通
ゝる帳の上ゝ居ゝぬ　毒の月　公成
ひゝゝゝ泊ゝこのゝゝて初ゝゝゝ　有芭
笑人も扇のゝ人て　強ゝ色　陳芭
ゝのゝゝ朝日敷ゝゝて月ゝ梅　荷舎
ゝゝ行ゝや吹ゝゝゝれて新ゝ　蛙池

手代ども新米を小杉屋　陵国
降るまき馬買うて大根引　九起

浪花

鈴木の門衛より洗て古稲川　葉探
美濃さまの茶や桶の転　牡丹
茅葺さまの入口を寝ぬ牧水　素屋
起くも桜よ夢のくハ伊の吉　舟九
活るもこのまま拝て吉ものく　蛍窟

畑中や畑中寺のの桜ども　知恵
黄ものや書よるまくも野ぶ　立蘇
門松の影のまもりし月和ども　梅軍改　梅き
福寿草れ出ると新よるまき利　月人
ものの灯を消すつ涼くれ　杉陳
乗まの黄ものつる笹この影　影左

五歳門　猫蓋

初雪をうしおるの弄　ヤマト　この蕉

空の物や家の中に物の汚　イタミ　輝人
明のうち見物　近き初日の影　春人
山かきをおもせたる篠の葉　サカヒ　蔭先
仲塔もうの色や　うめの花　北方
見雲ハ霧のうち雲　九段坂　白紙
日一ちの門一ちの　赤とん　うつり　古名
今蔵と一ちや　森の　北物
仲ちの家の　空　とく女

紙の國奈四國

夏の月ちの門田ちの　四句
あをしと日ち遠の行る　霧見　霧舟
色ちや庄屋所　社の　反南　一瀑
夕蔵や塔ちの　ハなちく　一鳥
新月のうー　行のうや　萩の　山居
背戸ハ色門ちの　けや　賜の　鹿笑
稲つちの　ちへの　夏月　稲の形　米寿

[illegible]人の[illegible]る二日の[illegible]　八　篠雷

[illegible]夜やたゝこの[illegible]の[illegible]　鹿の

[illegible]こゝ[illegible]やねゝの中　兎夕

山[illegible]の[illegible]や苔の上　犠城

[illegible]月[illegible]　羅村

雨の日[illegible]　蓬亦

七夕の[illegible]の内　宋[illegible]

[illegible]の[illegible]の日　葛城

寒[illegible]の[illegible]の浮[illegible]池の中　芋尺

[illegible]の[illegible]　義松

[illegible]月[illegible]神[illegible]　楊和

[illegible]の雨や[illegible]　[illegible]

[illegible]や戸口[illegible]　雄紀

篠笛や安[illegible]　木長（サヌキ）

[illegible]　北洋（イヨ）

中國

[illegible]磯の[illegible]き子[illegible]れ　アキ　甘古

相[illegible]宮の神[illegible]　[illegible]

[illegible]人の行[illegible]　[illegible]

[illegible]つ[illegible]　行[illegible]　[illegible]の今　三車

[illegible]　[illegible]　細殿

入[illegible]　[illegible]　ビンゴ　宗山

[illegible]宮や[illegible]の[illegible]の言[illegible]　佛[illegible]

十月や[illegible]の[illegible]　[illegible]　出律

引[illegible]　[illegible]　仙峰

初[illegible]や[illegible]の[illegible]　笠人

長[illegible]や[illegible]　霧玉

[illegible]　[illegible]　卜傳

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

初[illegible]二[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]　[illegible]　霧萩

[illegible]　[illegible]　[illegible]

蕉の葉を入るのよすがの一竈（ビゼン）　涼峰

伊賀　伊勢　尾張

駕舁今牡丹ちるや春雨　雲瓜

峠出せば白雲八島一引き去　来（イセ）

蛍干る泉の行方や鈴宜の家　又甫

町まちよ立ちのこるや雲の峰　蓼山

家をつて寝ても暮るる雨の月　立祝

うき舟よゆ世て家一梅のもと　雲汀

起ぬ中山家八秋よもすがら　雨石（ヨウリ）

小牡丹日ぶりのかすかなし　甫人

うす綾ちりしてうるや初茄子　不迁

日のうを廣ぶ蛙の蝶　信山

蛍ちるきの日暮ぶ一命風　野雲

ちるや中ぶ花ぶ男も伸る蕨の芽　破雨

漁士の火ぶ消ぬうちの夜ぶ　生岳

金仏よ寝ぶまつ山ちる柳　量水

おそしくし日かけりふりく帯子代　泰虎
梅うちや床の清きを浮ちる塵　坡柴
廣い蜻蛉おしかゝりて咲五形かな　錦水
ふろしきの帯吹ちらす菫かな　士精
ときかゝる船人まち込むふらんこ代　三枇
三日月やかゝりに何かあさき雲　指石
遠浦のいとゝ千かゝる桜かな　一清
すしおを見子出る川や[illegible]　里夕

梅か香や浪は柳の上の風まかせ利　曜游
川沿の越ぜぬ月夜のさくら哉　之四
桜ちるの子がらかゝし神社　左江
花やかの手紙懐めかす来よかな　二扇
夕立に出立まつや藪の風　菓乐
鶯や旅人のすく寺の門　巴川
法隆八さくらさくるぬ花盛なき　佳水
糸柳んばを[illegible]涯のさくめぬうち　二路

うら松や此しきせて　山の月　有素

梅て咲く田よ新しくや　二月月　伊水

是ぞこの世よ一新の磯恋ふる　松窗

初のきこえあるや　伊竹山　素秋

新蕎麦の脊ちよ　ちうの羽子一ツ　独高

和の色や素八田よ　ある社恋小路　和雪

修ぞのこと　新よ　松竹　きまの白　一松

初やうと　木蔭へ　遠入る日年代　素六

初色や　木新屋の　新新日の白　梅裡

稲つまの　中よ　尖きうつ　恋ふ　雪嶺

馬ちの子　新　遠ひつきて　田植　時　二鶏

美濃　三河　遠近

松の変せ　日や　浦の　海苦きあつ　龍遊

出遠入の　新　大　恋きよ　霧うれ　乗五

初と　村の　熱　行くめる　恋ん　と　歌山

書ぞや　雪の　ちの　新屋の　月　不空

春の月ほのぼのと陰る柳　雪雄

青柳やそよぐ岸の行く雲の青き　松雨

花見の雨や寝ぼけ起き出る　激角

撞めてるとまつて居るや叫の虻　師道

てるや伺ひ見たのて上　玄頌

初夢をかくとまきて寝る枕元　只朱

剃りたてたる髭や馬毛筆　蓮素

黄昏や峠の茶屋の表の　茅風

剃たらして牛迫りや春の風　石斎

買ひもやへくめぬ春の序　仲星

春雨や手の指ものや機の音　樗風

ぬくとくて行る有るもぬ揚出れ　定伍

元日や白ひきかるうめ　蓮宇

炉のぬくさ花よりもうれ福寿草　壮水

撞の音と和のうちとの猫の恋　嵐牛

きせゆく人のうとゆる日年代　芋岸

加賀　千蔭　越水

憐時雨ふるやうなれ共　柳巷
夢のうちきのせて猫の毛皮　大蓼
霧よまて金石の墓うつる　紫玉
加賀うきて雲ゝ　唐薯の酒　木主
見えて行る町へ清の吉　梅林　規洲
毒の水ひくうる　行まよみ　会
神ゝ　ちやうまつ　歌　雀宝

時ゝやる日の傳　日も　菊の中　文月
雨ふる夕の寺うけて　梅の影　赤梅
神の灯ゝ　もゝひ会せや　初日の出　尾旭
只ゝ清ゝ立　秋の蕾　菜延
情情や　吹雪　ものゝ　風　紅春
末のゝゝや　弱る　仕立　舟　歩く
世よ半一　座のゝゝ　きゝや　雪男　舟岩
手よう寺ゝ　うる　風情　雪吹　ノト　仆外

初雪や蕎麦の上越す岩ノ家　野子

信保姫の祖父母の墓　梅東　蕉六

移ろふや積毛ふるる猫の尾　長崎

ちりそめの紅の池　米荔

春雨の月すこしのぞく雨の跡　エヤセン　素雨

岩ぶすの白き蕎麦の白　布巾

移ろふ時毛の逆らふや蛸ぬせ　鶴馬

越中　越後

月八末ゴ深き雪のたまる君哉　エワヲ　横文

雪ぬぎ一ぬぎ脱の先長の水　望乙

先代一ぬぎ梯田の水車　寿阜

目さめ出る初雪の初雪　蕉里

夕新雪さめぬるる日のなのる　禾汀

ちらしよきそて佛生　杜義　エチコ　乙良

てのくるる日のさ一つ残る尾花　杉堂

寺のるや新坂ちる梅ちる　雪峨

言葉より一きちのうる柳うの形　葉山

近う寄ハして来ぬるひの寿ゑれ　有末

ぬるとてきて世ハ住よ者世世の恵　葉居

のくまてよ結ぶハめくし雪の恵　古業

徒の家ぢ世ぬ〳〵ぬる世分ぶ　月的

きぬ〳〵と初吉ゑよ　ようのこ寿り　空来

ゆきう寿る新のよ新ぶし夕　寒　大栗

宝月やきり〳〵陸をのる色　きちの

呉井のそく吉きる吉く世ぶ　尤像

伐り捌く吉のきゆ者西所寿　為色

中和世ふき色ゆ小恵の牡美　常時

志り恵ゑ美てよ世く美し中し　冠枝

美うる門ゆきてきて苗一荷　文常

志てゆ炉てのてうき屋ぬ　葵史

陸奥　出羽

中て美ゑてぬぬよ美ゑよ　一止

庭の花咲を世界をおもひうち　得二
夜毎に住居をうへて菊の花　清民
見るこのこよかきこと咲色ちりあ　土宜
孤よりをうちて見ること咲子業　ツカル　壺枝
特あくあるハこと屋うめ　有川
雪をとき雪を掃仕業菓代　光石
連立て駕ゆとうゆ家　振堂
物のまへ方ちり叫の尾　夢月

雪よ強く降れども何のうら山の雪の下
國義

立春のかよふその為に出でゝ
林雄

何のうらゝ人の為ゝうら山の雪の宵
二友

月入て後をゝ山も梅の木の写し
立風

巖をゝる音ゝ和歌の浦の岸こゝの
静閑

松風の中より鳴りて磯の山
蘇山

ゝゝ音ゝ二月の末北野をゝ立きし
の楼

ゝゝゝ松より吹ふ一きゝ入て
應石

秋をゝる音ゝ聲ゝうやいきり舟
此事

月光の外より吉田のゝ山のゝ見れ
瓊亡

牡丹　佐成

末戸の内ゝ末石北に咲る牡丹哉
旭

樹の内ゝ遠近や ゝ ゝ 朱
蕉雨

うゝ正て田人家味のうゝ小ゝ
一歌

ゝゝゝ見もゝうゝ小朝 麦
巳有

菓子味のつゝ中日ゝ重きうゝ
徐蓬（ハヨクテ）

金柱の枕中 きく菜哉 北嶺

生えそうよ蔵そも 牡丹そのうれ 之子丸

石橋や蔵そしくも 色の色 サト 斧刪

はつあつの余社日 はつまつの日代 倉床 大彎

淡苦嘉栗を小ぜよ 梅の開れ 淡安

四つの横よ 柳しそ 芭の色 出雲 百年

五月雨よ一回を ふるそ 朱の芽代 イナバ 柏葉

ぜつ雲よ 石のそ 秋の 日向 双鳥

紫神をそれ年の あき 出石 断芝

川ぬ雲 うれ しそ 秋の ゆく 和泉 杜壷

房遊ぶ 雲 出る 伊与 学居

情婚 雲 ぬる 日の 抜る 長崎 礙花

川と雲 牡 清年 おの 蔵 刈ぬ 尾張 士精

ゆ雲 の れ 雲 雲 あ 雲 蔵 柳 伊勢 雪菊

追加

ひるがへる月は霞て山の梅　一の大

暮てまた湖に落る鳥や雪しまき　伊勢 つき雄

田の引残りの方や菫草　会津 喜山

蕎麦や蝶白に花の初ちる　杉丈

川音に蛍きえけりや寝の押し　巻車

出てはまた咲けば蕗の初鶴　鶯周

春造作に来てみる庵の競馬哉　下毛 巣欣

春雨となる夕や寺の大根畑　優之

夕立の降らせ流し葉への水　上毛 花雄

猿言ふて浪もの哀や古き臺　伊勢 柳甫

雨や籬に懸るも涼山めく　甲斐 南海

小流を堰きて梅に小家の乱　丹後 巌北

春山に打ち合ひぬ雪の垣　雲州 其游

咲きたるは香もとまりし庵の蒲　其來

月入りて分けし日の名残かな　文雄

[illegible]の裏　拙士

[illegible]牡丹　主翁

降雪[illegible]入る春月れ　拙九

[illegible]の出　董邑

[illegible]葉　拙水

芙蓉のごとく起きるや　士樣

[illegible]人[illegible]扇の表　信堂

[illegible]魚の[illegible]　吉好

[illegible]の夢　青岳

初[illegible]西[illegible]　銀岱

[illegible]の中　魚仁

山[illegible]百花[illegible]の麻[illegible]　体良

[illegible]初[illegible]　雪篇

十月は杉葉[illegible]　乙也

[illegible]き[illegible]　野甫

一日[illegible]　白亮

春雨ハ夜雨よりなり 桂本市 蓮阿

明くれば一羽居るちとり草 北窓 也

板屋つく梅の匂ひの 出川

霞雨と云る言葉やの花 芳傳

旅ものの系ハ菊の玉まちり 和雪

幾山や面白させる秋の雲 良の

さらし屋の糸ハ地ゆ小六月 海良

新米喰ふ糸ものの麦畑 清良

黄雲霞あり 体玉山 雄迭

年刈の屋の手ものの玉 春 是外

霞く焼の中の屋を樹る雨 迭

咲ハるる 秋 雪ふる 外

何ものの田に刈あ雨て霞月 迭

羽ものの秋 秋の 蛾 蛾 外

春うちのそらなる秋風さめるあり　遊

大はをとて三井の鐘きく　外

鄙の里活きて仲〳〵肩のをせ　遊

東の縁り社雪ふめるとく　外

門をうち風流らく越向とり　遊

一トロ弾ふ宋社水鶏ヶ　外

うち恋の月さへあき青の門　遊

さら懸鶏て駅走ふる　外

蓮人は蓮人は社人小鳥きき　遊

幸霊幸幸苦の意社きく　外

法志の社祭の戸遠き夏の中　遊

雲比とつ高き　鶏の鶏つ　外

蚊帳の上実捨て起く星帝　左傳　蕉律

見咲てうく恋恋の名を蛍の竜　赤壁　素毛

安蚊帳や刈きてかたうとき　下絵　雪月

[illegible]ひ[illegible]遠[illegible]子　靜内

日和[illegible]る月[illegible]の　[illegible]　見外

[illegible]の家[illegible]の[illegible]撲の家[illegible]て[illegible]　内

[illegible]の外[illegible]小[illegible]の[illegible]　外

[illegible]帝[illegible]輝[illegible]の[illegible]　内

いつ[illegible]廣[illegible]る　相の[illegible]　外

[illegible]の[illegible]　月

[illegible]の仮住　外

[illegible]起[illegible]　内

[illegible]師[illegible]　外

[illegible]　月

[illegible]の[illegible]　外

[illegible]の[illegible]　内

[illegible]料理[illegible]の[illegible]　外

[illegible]仲[illegible]

漸くに宮の普請も出来上り　肉

孫をまつの世ハ老り行追ふ　外

飛り蝉の声にまじる萩の里　肉

玉し汲よとれし垂の下洛　外

鶉の声に菊咲のこする新蝉か　江戸　双雀

さみだれや嵐吹のこす壺の鉢　ムサシ　双字

山の茶や去し奥ある宮の色　尾張　武世

蕣や月の雲を夜一夜　見外

男まで深入る虫の声ひき聞　蕙外

仲間うち世る菊の酒ま秋暮て　竹麿

よしなしにまかる秋ぞし　外

近き路ハ穴の雨の蝶も雪月夜　蕙

桜の花都まで渡る　簫　麿

下ヲ寺ヲ吹迄雪ガ降ハキテ　外

屏風ノ箔ヨウツル　探燭　一　葉

ウ　海物ヲ　ヲ　高ノ　ウツキ　廣

ヲ　日節　白ヲ　ウ　ハキノ　外

五月雨ヲ温泉ヲ　ノ　ヲ　ウ　葉

ヲ　ヲ　ノ　ヲ　ウ　廣

手ヲ　ウ　廣　ヲ　ノ　ヲ　外

ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　葉

いつも　飛鳥ノ名ヲ　廣

ヲ　ヲ　ヲ　十五日　ヲ　外

月ヲ　奥ヲ　雜集ノ立ヲ　葉

ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　廣

短歌ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　十二　潮水

ヲ　ヲ　人ノ　ヲ　ヲ　一　一

ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　十ガ　笠下

春雨や降るとはなしに降る涙　白雀

雲のゆく日の暮るるに入れば　子柳

末広薊稜拙よ書の箱をの帯を　見外

雲の連のいつかまとまる　雀

沒くと温泉槽よ自の生の星　柳

虫まる地の方まる夢　外

住吉のお撫り宮まとうはえ　雀

丁稚のうく吉紋付の袖　柳

逝歳ふ雪の降日紙出雲し　外

まく墨で明上方の状　雀

ぱちつまの竹まる小言の写俳で　柳

傍楽新屋よ吉く晨鐘　外

寝ち紙ふる月の明るまるつく　雀

吉き水煙叫ん俳句出沈　柳

下毛見よ遥つのもとも哀なる　外

三乗寺一の味噌嘗め口の中　雀

名ましき花よ雀のとまりて　柳

沙平く　雲雨　うら野　外

ふるとしの夢のうつむき鶯哭　雀

ちらふる　やりさきの　ちる　柳

通ひ路の　花小葉　外

ちる風立　蓑のうる　出　雀

ぬきとり八幡ひまくき　砂り　猪　柳

乗の切　ぬ　ぬ　口上　外

小雪　きの八　新おの通り筋　柳

下絵　風の　ならぬ　外

まくき　刺　山蔭よ　後くこ　柳

辞義　す　志ぬ　特系　外

二段　月見の　八伊勢よ　屋　柳

ぬ一面　秋の　大雲　外

手ヲ出シ強ク差出ス　柳
見ヨウ者イの事ハ　外
親村の名主ハ内ニ入組ス　柳
長作　内ノ法ク　長昇　外
山林のこうくとあく逢ニ　柳
三人　内ノ　好金五加木　外

ヲみなかをの田ヨリある山耕地　是外
不ヲ作ヲ　笠ヨ　ヲ作る者　物　一好
絹の傍ニ在る人ヨ　ヲ　ヲ　ヲ　蛙池
ちのつと　訓　深ヨ　ヲ　蔓火　外
六時ヲ　隙ヲ　立　待の　門出ル　好
減ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　牧　池

秋の日よ戸障りの紙ぬらさん　外
ぬらすまでとうの昔の髪　好
無業を居ぬ事実のそのさて　池
為てくれたもの保証のおと　外
保証と言のとうく降生　好
未ふりなのある仮うの松　池
為のうちのこと実の唐う峰　外
今時夢ハ松生一星ふり　好

[illegible]日の老を　池
延を[illegible]る宿引　外
[illegible]一[illegible]の[illegible]　好
美せて松[illegible]事[illegible]める　池
煙を切て[illegible]は　外
遊ひ[illegible]ふ面を縁宜　池
[illegible]なる強組いひ[illegible]　好
美拙義[illegible]せ京　外

石町ゟ時ゝ参申候四角出
来師ゟ買うゝ苗ものゝ苗
勘者のせうき一間ゟ絵をかし
うまる麦畑の麦ゟ蔵うまる
砂ゟせめ出ゝつゝゟ日の竹者ゟ
伺家へ竹ゟ申ゝ出ぬ角
秋暮きうちハおくゝ塗仕ゟ
ゝ世話ゟ伺ゝ出ゝ来

沈
ぬ
外
沈
ぬ
外
沈
ぬ

富茶屋ゟ帳の通丈ゟ社ゟ書
右人ゟ来ゝ出ぬ角せ兼
皇ゟ八市の市ゟの立ゟうゝ
出ゝうゝ出ゝ申ゝ上ゝ竹
和ゟ雑の開帳せうゝ
芝能ゟ八日和ゟ

沈
外
ぬ
沈
外
ぬ

うるはしの　秋田や　牡丹咲　其仙

蓮葉や　宝ながら　切て　日のくれ　、　栗堂

朝のふまて　さくら　赤の間や　初桜　、　蓼文

とのたちの　笄　解　たて　屋　寂れ　、　吾之

菖蒲や　旅の　さくらの　一ト　ゆふ　、　牧角

長閑さや　新くハ　雲　ふまう　陸奥　六槐

うめ　さく　屋の　内　、　青田　乱れ　、　得二

雲　羽　の　ふる　さと　立　や　雪の　上　十二月　梅雄

川　梅　や　ふる　こ　る　雨の　行　上総　孝甫

さら　井　ハ　梅　ふ　さ　る　庭　掃除　下毛　弘閑

山路　来て　ふつと　見つ　青田　乱れ　仙台　琴玉

ふつ　と　田　陰　さく　日　や　蛙の　声　、　星川

水　鶏　を　左　右　よう　者　て　蓮　の　花　、　星梅

蓮　の　花　や　さ　ふ　ハ　出　さ　の　ち　の　結　、　物変

黄　な　や　ひ　ま　り　近　付　ま　ら　ん　、　徐水

出　さ　く　ハ　陸　ま　る　月　と　梅　、　卜僊

蜻蛉は法師の子らしや秋茶子　尾張　霧晴

入のこる陰のおぼろや三日の月　玉宝

降あとひとのよもぎぬ雨の花　三ノ　蕪庭

芋ほりの人々しきる月和れ　仁戸　樗笠

降るまゝまゝ巻はきれ、ちゝ

義仲や長白きるゆの空、鈴巷

蓼よりそゝる日の雨の花　上総　梅山

殺義はあるひのあれるの紫小　越中　岳芋

法華くるまるる日長一雲の門　仁戸　花笠

ゆちるゝ野ゝ寺一飛　蛍、茶月

法師やこれゆゝやふの星和、子柳

燈をもとゝる一うの夜の虫、東志

拾うるのゝ新　柳ゝまゝ利、竹二

中　ゆ寺ゝ雷ゝ何ふ陰蛍れ、益翠

老ゝ寺ゝこんまゝゝ花の雲　イヨ　菜園女

法をこんゝ廣き田植ゝ水　十六　硯霧

月新やあらつ雪ぞ飛ふ鶴　東岡

ちの吉ちやく　更ら女の和　熊沢

揖ちの行こふ舟よ寄の雪て　見孔

なめく井の海よ破け星　井二

梅活て春ちちちら雪き　東志

ぬちち根の新ふく　井重